

体育・保健体育分科会

I 研究のあゆみ

4月22日(月)	2024年度名教組教研オリエンテーション (2024年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月2日(木)	発表テーマ報告・集約	
5月上旬	第1回分科会(指導者決定通知と研究推進について)	【紙面開催】
5月下旬～9月	個別に研究内容の検討	
7月26日(金)	第2回分科会(発表に向けてのプレゼンテーション学習会)	【御器所小】
9月上旬	各班で市集会発表内容の検討(リハーサル)と打ち合わせ	【各会場】
9月21日(土)	第74回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

II 研究協議の概略

「体育でどのような子どもを育てるか、自ら考え行動する子どもをどう育てるか」という大テーマのもとに、「わかる・できる・かかわることを大切にしたい授業づくり」「ねばり強く学ぶことをめざした教材や指導方法の工夫をした授業づくり」を追究した貴重な教育実践が、44本のレポートとして報告された。

運動領域別では、器械運動・器械・器具を使つての運動遊び(21本)、ゲーム・球技(9本)、走・跳の運動・陸上運動・陸上競技(10本)、体つくりの運動遊び(1本)、表現運動(1本)、水泳運動(2本)であった。

多くの実践で、「できた達成感が味わえる教材と学習活動の工夫」「課題解決に結び付けるための、多様な練習の場の設定や練習方法の工夫」「考えながら運動するための教員支援の工夫」等を手立てとした報告がされた。また、「ロイロノートを活用した振り返り活動の工夫」「客観的な視点で振り返るためのタブレットの活用」等を手立てとした実践では、ICT機器(タブレット端末)を利活用することで、動きの分析に取り組む姿を引き出したり、課題発見に生かしたりすることで、研究のねらいに迫ろうとする報告が多く見られた。

III 今後に残された課題

- 「わかる・できる・かかわることを大切にしたい授業づくり」では、ゲームやレースの設定(参加人数、学習内容、ルール等)をどうするか、自己決定や気付きを促す発問や教員支援(視点の提示や助言等)をどのように行うかといったことを、実践を重ねながら更に高めていく必要がある。また、課題は理解しているが自分だけでは課題解決につなげていくことが難しい子どもに対しては、「わかる・できる」と「かかわる」をどのように考えていくとよいかについて、今後も検討が必要である。
- 「ねばり強く学ぶことをめざした教材や指導方法の工夫をした授業づくり」では、ICT機器を利活用することで、子どもが自ら技能を高めようと客観的な視点を持って動きを分析することができた点はよかった。今後は、子どもが動画を見て分析するだけでなく、動きを振り返り、次なる課題解決に向けて更なるステップアップにつながるような教材や指導方法の工夫を検討していくことが必要である。